

事業完了（廃止等）報告書

調査研究期間等

調査研究期間	平成28年6月21日 ～ 平成29年3月17日
調査研究事項	<p>《委託研究Ⅰ》</p> <p>【京都市立洛友中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導に関すること ・生徒指導に関すること ・心身の健康指導に関すること
調査研究のねらい	<p>【京都市立洛友中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導に関して <p>近年以降、日本語の会話が殆どできないなど日本語の会話と読み書きが不十分な状態にある帰国・引揚の日本籍・中国籍の生徒や、韓国・朝鮮籍やフィリピンなどアジアにルーツを持つ新渡日の生徒が、年々増加してきたことにより、年齢層や国籍、学習の習得状況が多様化している。このような現状において、本事業の成果物である「日本語（国語）テキスト」内容の改善と再編を進め、課内・課外の日本語教室において活用し、学習内容の理解力と社会生活を送る上で必要な日常会話能力を高めることをねらいとする。また、形式的卒業者の受入と基礎学力の定着及び高等学校進学等の進路保障について調査研究を行い、進路の希望が実現できる学校体制の構築もねらいとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導に関して <p>日本語の定着が不十分でコミュニケーションが取りにくい生徒が増加する中で、生徒指導の基本であるコミュニケーションに基づく生徒理解が不十分な現状である。そこで、日本語指導の非常勤講師や学生ボランティア・通訳ボランティアを活用し、意思疎通を図る取組を進め、教職員・ボランティアと生徒相互の良好な人間関係を構築していくことをねらいとする。また、形式的卒業者の学校生活への円滑な適応を図るため、教育相談と生活指導（基本的生活習慣）について改善を進めることもねらいとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心身の健康に関して <p>高齢の生徒を中心に、さまざまな疾病を抱える生徒の学習を支援するための健康観察や健康相談について改善を進めることをねらいとする。また、形式的入学者の中で、心のケアを必要とする生徒の早い段階での学校への適応を促進するため、健康観察や健康相談を充実させていくこともねらいとする。</p>
調査研究の成果	<p>（１）本年度の取組について</p> <p>調査研究のねらいを達成するため、以下のとおり取り組んだ。</p> <p>① 生活実態を把握するため健康面を含めた定期以外に家庭訪問を増やし、日本語理解等に関する環境の把握に取り組んだ。</p>

- ② 校内研修会において、その実態を報告するとともに、それぞれの日本語理解環境について情報交換を行った。
- ③ 日本語理解を深めるため、「音読」と「漢字」の学習を重視する取組を進めた。
- ④ 分かりやすく読みやすい日本語教材の作成と市販教材を活用し、興味や関心をひく筆記・音読・黙読・考えるテキストの作成を進めた。
- ⑤ 学生ボランティアや地域ボランティアを活用した。
- (2) 改善充実の成果について
- 上記の取組の成果を定着させるため、課内・課外の日本語教室における学習内容の工夫による授業改善を積極的に進めた。
- 今年度は「音読」と「漢字」を重点的に取り組んだ結果、殆ど日本語が話せず漢字が書けなかった生徒が、片言ながら挨拶や日常会話ができるようになり、住所や地名なども漢字で表せるようになるという成果があった。また、文化祭での詩の群読等の経験を重ね、自己有用感を高めた結果、自信ある表情で発表できるようになり、学習全般にわたり積極的に取り組む姿が多く観られるようになった。
- さらに、昼間部生徒との交流学习の時間に「花文字」の作成や「人権標語入りカレンダー制作」等の共同作業を通じてコミュニケーションを図る姿も見られるようになった。
- ボランティアとの会話が行われていく中で日本語理解が進み、生徒との良好な人間関係が構築でき、ボランティアで活動している地域女性会の協力をえて全校生徒が「茶道」や「和服着付け」を学び、日本文化への興味や関心が高まり陶芸や和服について様々な質問をよせるようになり、難しい漢字の意味を知り覚えるため、日本語で質問しようと努力する姿もみられるようになった。
- (3) 形式卒業者の行け入れ
- 平成28年度から、不登校等の事情で義務教育を十分に受けることのできなかつた中学校既卒者を受け入れている。
- 夜間部で学ぶことにより、高等学校への進学を目指すようになる等、学ぶことへの意欲の向上が見られる。